立教大学 | 観光学部　観光学科　交流文化学科
大学院　観光学研究科

〒352-8558　埼玉県新座市北野 1-2-26　TEL：048-471-7375　https://tourism.rikkyo.ac.jp

明日の「観光」を担う有為な人材を輩出

観光関連の大学・専門学校

現在の観光業界の大きな課題の一つは、「人材不足」だ。今後の成長を目指すうえで優秀な人材の確保が欠かせない。今回の特集のテーマは「観光関連の大学・専門学校」。ここで取り上げた学校の学生たちは、旅行会社や旅館・ホテルなどの専門知識を学び、そこで働くことを夢見ている。明日の「観光」を担う有為な人材を輩出する10校を紹介する。

特集記事 11～13面

立教大学　日本の観光教育をリード

立教大学は70年以上にわたり、日本の観光教育および観光研究をリードし続けてきた。宿泊、旅行、交通、自治体など、観光に関わる幅広い分野でOG、OBが活躍。研究者も多く輩出し、国内外の大学で教育研究に従事している。

経験豊富な教授陣による最先端の観光教育

戦後間もない1946年、同学にース」が開設され、翌67年は同コースが「観光学科」として独立。日本初の4年制観光教育・研究機関となる。98年には観光学科が「観光学部」として独立。日本の大学で初めて「観光」の文字を冠した学部が創設された。

以降、ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学（ベトナム）、中山大学（中国）、ラオス国立大学（ラオス）、マラヤ大学（マレーシア）、漢陽大学（韓国）、タマサート大学（タイ）、セントラルフロリダ大学（アメリカ）など、海外の多くの大学と協定を締結し、学生の派遣、留学生の受け入れを積極的に進めている。

観光学部は「ビジネスとしての観光」「地域社会における観光」「文化現象としての観光」という三つの視点から観光を学び、その多様化した全体像を明らかにする。

「観光学科」「交流文化学科」の2学科で構成。先に示した三つの視点のうち、観光学科は主にビジネスとしての観光、交流文化学科は文化現象としての観光を学ぶ。地域社会における観光は2学科両方で学べるが、観光学科は「地域づくり」に、交流文化学科は「地域のありよう」にそれぞれ力点を置いているのが特徴だ。

1年次は学部共通の必修科目「観光学概論」を通じて観光学の基本を体系的に身に付け、大学での学びのスタートを切る。「基礎演習」では徹底した少人数教育を実施。ディスカッションやレポート作成を通じて、自ら考え表現する能力を身に付ける。

2年次以降はより専門的な学びに進む。観光学科は「観光ビジネス」と「地域づくり」という二つの柱から科目を構成。交流文化学科は社会学、人類学、地理学、文学、歴史学の五つの学問領域で構成。専門性の高い講義や演習（ゼミ）での指導を通して、自分なりの問いやテーマを立ち上げて、多様な視点から考察できる力を養う。

授業の一環として、多彩なインターンシップ（職業体験プログラム）を実施。「観光インターンシップ」は旅行、宿泊、交通など観光ビジネスに関わる企業や、観光振興・地域づくりに取り組む全国各地の自治体、観光協会、DMO、NPOなどの実習先で活動を行う。「経団連インターンシップ」は日本経済団体連合会と同学部が連携して実施しているユニークなプログラム。実習先は観光に関わる事業を展開している企業が中心となっている。

観光事業を現場で学ぶインターンシップ・プログラムが充実

観光学部を卒業した学生は立教大学大学院観光学研究科に進む。日本で初めて観光学を専門に研究する大学院として、98年に創設。多くの観光研究者を輩出している。

江戸川大学　教育理念は「人間陶冶」

江戸川大学は千葉県流山市の駒木キャンパスで観光教育を行っている。流山おおたかの森駅（つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン）から無料スクールバスで6分、徒歩だと18分の便利な場所に立地している。

同大のルーツは1931年設立の城東高等家政女学校。「教養ある堅実な女性の育成」を教育理念とし、その指針として「誠実」「明朗」「喜働（きどう）」の三つを掲げた。現在、学校法人江戸川学園は、1990年に開学した江戸川大学をはじめ小・中・高・専門学校の計7校で、約7千人の学生、生徒、児童が学ぶ総合学園となっている。

江戸川大学としての教育理念は「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成」。つまり「人間陶冶」を掲げている。「情報力を磨き、国際力を育てる」ため、同大学では開学以来、学生全員にノートパソコンを無償貸与。ハイレベルな留学を支援する奨学制度「グローバル・スタディ・プログラム」も整う。同プログラムは、「入学時英検2級以上で初年次学費35万円減免＋夏季海外研修費用免除」「留学費用約300万円を大学が全額支給」「帰国後の学費55万円減免」と極めて手厚い。

江戸川大学外観

同大は、社会学部（現代社会学科、人間心理学科、経営社会学科）とメディアコミュニケーション学部（マス・コミュニケーション学科、情報文化学科、こどもコミュニケーション学科）の2学部6学科制。観光教育は社会学部現代社会学科（定員80人）が担っている。

同学科は「観光学ゼミナール」「テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール」「文化人類学ゼミナール」「民俗学ゼミナール」「環境学ゼミナール（くらしと地球環境）」「環境学ゼミナール（自然共生社会）」「博物館学・文化遺産学ゼミナール」「食文化・レジャー学ゼミナール」「スポーツ社会学ゼミナール（競技）」「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」の10ゼミナールを10人の教員が担当している。

観光学ゼミナールを担当する学科長の崎本武志教授は「現代社会学科の10ゼミナールは全て『観光』というキーワードで繋がっています」と話す。同教授はJTBの出身。日本国際観光学会の会長、鉄旅オヴザイヤーの審査委員も務めている。

「社会学部現代社会学科では、社会学を基盤にした基礎的な知識とフィールドワークの調査手法を身につけ、多様な研究領域から社会の課題解決にアプローチ。『現場で学び、問題に切り込んで常識を疑い、解決策を提示する』という一連の流れを重視しています。『地域社会（ヒト）』『資源（モノ）』『制度（しくみ）』という三つの視点から現代社会を捉える力を養うとともに、実際に現地を訪れて調査研究を行う『フィールドワーク』で、調査力、発見力、考察力、マネジメント力、解決力を身に付けます。3年次からは10の研究領域から興味関心にあったゼミナールを選択し、自身の研究テーマを探求していただきます」（崎本教授）。

崎本教授

各ゼミナールでの取り組みはユニークだ。

観光学ゼミナールのフィールドワークでは、JR東日本の柏駅と連携して、JRの駅を基点に周辺地域の魅力を楽しむイベント「駅からハイキング」に参画。スタッフとして参加し、当日の受付、スマホアプリの利用方法の案内なども行い、ホスピタリティを実践で学ぶ場ともなっている。

「テーマパーク・観光まちづくりゼミナール」は大塚良治教授が担当。「まちでのフィールドワークを通して、地域活性化に対する理解を深めています。受講生には地域活性化策を作成してもらい、行政などへの提案につなげています。ゼミナールでの学びが地域課題の解決に結びつくよう努めています」（大塚教授）。

土屋薫教授は「食文化・レジャー学ゼミナール」を担当。「食の問題は、観光の分野ではカリナリーツーリズム、フードツーリズム、ガストロノミーツーリズムといった言葉で語られますが、『食文化・レジャー学ゼミナール』は、グローバルリゼーションに伴うマクロな視点だけでなく、個人のライフスタイルに関わるミクロな視点からも、食の問題に焦点を当てようとするものです。その意味ではキッチンカーやポップアップ、間借り営業も対象として視野に入れています」と同ゼミの特色を話す。

「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」担当の野上玲子講師は2023年の同ゼミの活動内容について「サッカーやラグビーなどのプロスポーツの現場へ行き、ボランティア活動を通じてスポーツと社会とのつながりをフィールドワークしている。昨年は福島県を訪れ、震災直後のJヴィレッジの取り組みや、復興に挑戦する企業の方々の話を聞くことができ、スポーツの価値を再認識する実習となりました」と振り返る。

文化人類学ゼミナール（川瀬由高准教授）では台湾に、環境学ゼミナール（中島慶二教授・奥山正樹教授）では上高地にそれぞれフィールドワークに行き、学生からも好評を博している。

同学科の卒業生の就職先は、エイチ・アイ・エス、クラブツーリズム、リゾートトラスト、東横イン、日光・鬼怒川リゾート鬼怒川温泉山楽、稲取赤尾ホテル、伊東園ホテルズ、休暇村協会、グリーンホスピタリティーマネジメント、東京エアポートレストラン、ジャルロイヤルケータリング、JR北海道、秩父鉄道、東急バス、リムジン・パッセンジャーサービスなど。観光・観光関連業界へ確実に人材を輩出している。

江戸川大学 EDOGAWA UNIVERSITY

フィールドワークで世界を知る

社会学部現代社会学科

観光に関わる 10領域の学び
- 観光学ゼミナール
- テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール
- 博物館学・文化遺産学ゼミナール
- 食文化・レジャー学ゼミナール
- 文化人類学ゼミナール
- 民俗学ゼミナール
- 環境学ゼミナール（くらしと地球環境）
- 環境学ゼミナール（自然共生社会）
- スポーツ社会学ゼミナール（競技）
- スポーツ社会学ゼミナール（公共）

現代社会学科ではフィールド先からの実況中継を行います

観光学ゼミでは、インバウンド観光を支える成田国際空港へ。同空港の施設や歴史について学び、国際観光・国際空港のあり方を考える機会に。
撮影協力：Narita Airport

環境学ゼミ（自然共生社会）では、中部山岳国立公園の一部をなす上高地を視察。穂高連峰などを望む山岳景勝地として知られ、人気の観光地でもある。

入試アドバイザーが対応
入試相談会
※予約が取れた時間にご参加ください
9/21（土）　10/26（土）
各日 9:30～16:00
個別相談　キャンパス案内
N棟（受付）

学部・学科の学びやキャンパスライフの魅力がわかる多彩なメニューを体験
オープンキャンパス
※事前申込制
7/13（土）　8/3（土）　8/24（土）
8/25（日）　9/7（土）　2025年 3/22（土）
各日 午前の部 9:30～/ 午後の部 13:00～
- 大学・概要説明
- 学部学科の展示コーナー
- キャンパスツアー
- 学食体験
- 個別相談コーナー（入試・就職・奨学金など）
- フィールド先からの実況中継

江戸川大学 EDOGAWA UNIVERSITY
〒270-0198 千葉県流山市駒木474
お問い合わせ先：入学課
0120-440-661　nyushi@edogawa-u.ac.jp
URL edodai.jp

1分で分かる！江戸川大学の学びの魅力を先生が解説！
LINE 公式アカウント友だち登録！